

総合診療科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

准教授	杉山 哲也	安全かつ効率的な口腔ケア方法の確立
	大神 浩一郎	舌・口唇に対する間接訓練の介入による口腔機能への影響
講師	杉山 利子	臭気が認められなかった口臭症患者の性格特性についての検討

2. 成果の概要

1) 大神 浩一郎

食品摂取の多様性の低下は、認知機能の低下につながることも報告されている。そのため、咀嚼機能を含めた口腔機能管理（維持）は認知機能の低下患者の誤嚥防止、栄養状態の保持などに大きな影響を与えるために重要と考える。また、口唇、舌、下顎、口蓋、咽頭などの運動機能の低下は、構音の不明瞭化から会話の困難感につながる可能性がある。会話の困難感に起因する社会参加の低下を介して認知機能の低下につながる可能性が考えられるため、舌や口唇の運動機能低下も認知機能の低下につながる経路の一つであると考え。認知機能の低下（海馬神経細胞減少）につながる経路の一つとして舌や口唇の運動機能低下に着目し、口腔機能および口腔内環境と認知機能との関連の検討を目的とした縦断研究による検証を行い、さらに間接訓練による効果を検討中である。

2) 杉山 利子

（成果を発表した論文等の情報を末尾に記載）

口臭があるという思い込みや、口臭に強い拘りをもち悩む心理的口臭患者は多い。このような口臭患者の性格特性を知ることは治療上非常に重要である。東京歯科大学千葉歯科医療センターの口臭外来を受診した患者を対象に、交流分析理論に基づく心理テストである東大式エゴグラムを用いて口臭外来来院患者の性格特性を調査し、口臭外来来院患者のうち口臭が認められなかった患者の性格特性を検討する。

3. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費 科研費の場合は種別も記載
大神浩一郎	MCI 高齢者の認知機能と口腔機能・口腔内環境の低下予防のための介入プログラム開発 研究課題	科研費 基盤研究(C)

教育に関する業績、活動

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
杉山哲也	2022. 7. 6 2022. 7. 13	摂食嚥下障害の補綴的対応・在宅歯科医療と摂食嚥下リハビリテーション 摂食嚥下機能の評価 (中途障害・高齢者編)	埼玉県立大学	越谷市
杉山哲也	2022. 10. 20 2022. 11. 10	摂食嚥下機能の評価 (中途障害・高齢者編) 摂食嚥下障害の歯科補綴的対応 在宅歯科医療と摂食嚥下リハビリテーション	目白大学短期大学部	東京都 新宿区